『親と教師に申し上げる』

市内教員ＯＢ　郡家　小林弘二

・　“少年よ大志を抱け”古くとも　今すべての子供の心に持たせたい言葉である。
親と教員の最も大切な仕事は、子供に“大志”を抱かせることである。
『大志』『夢』を持っている子は、その達成の為に自らを鍛えて行くものだ。
大志に向っての努力は必ず報われ、努力を怠る者は転落・餓死が待つと教えよ。
学校道徳の時間はそのためにある。また家庭団欒の時間はそのためにある。
教員も親も、世界観、世界の中の日本観、そして正しい歴史認識を持たねば、子供に“大志”は教えられない。特に大人の誤った時事認識・歴史認識は子供の心を壊すことになる。大人が正しく学び、子供に話すときは十分配慮せよ。

・　親も教員もこの子の将来像を画いて育成しているか。今だけを見ていないか。２０代　３０代　４０代と進んで行くこの子の姿を画いているか。間もなく社会人となり、荒波を受けて進むこの子を思えば「今鍛えておかねば」との気持ちが湧き、また「こんな鍛え方で良いのか」との思いが日々　心に迫って来るはずだ。
いま　学校でも　家庭でも鍛える姿が薄くなり　守りの姿勢に変わって来ていないか。「思いやりのある子」「みんなに好かれる子」に育てたい。こんな親では駄目。
一番大切なのは　**強い子に育てる。** 逆境にめげない強い子を育てることである。

・　篠山の教員諸君！君の教育情熱は子供と向き合っているか。パソコンと会議にばかり向いていないか。子供は、昼の教員の汗と、夜なべに持つ赤ペンの愛情文字で育つ。教員は（親も）常に高い位置にあって子供を引き上げ、引き伸ばし「ここまでついて来い！」「おまえは出来る子なんだ、もっと高きをめざせ！」と叱咤激励し、不正と怠惰を許さない恐い先生（親）となってこそ、信頼され、尊敬され、時には感謝もされて、子供も親もついて来る先生となる。
「子供の目線に立って支援する先生であれ」「尋ねて来たときだけ支援せよ」などと馬鹿げたことをいう校長がいた。これを信奉する教員もいる。　教育放棄である。
教員に「指導し・鍛える」と言う心が抜けてしまったらもう教員ではない。弱い子、我が儘な子をつくって、頼りない大人にしてしまったら、これこそ最大の人権侵害ではないか。　　子供は「鍛えてくれ！」と望んでいる。

- 若い親たちよ。我が子を『身辺整理のできる』子に躾けているか。自分で使った物の後始末が出来ているか。これは、人間をつくる基本道徳の大切な第一歩目である。これができる子は非行への心配は無用。　我が子に身辺整理が出来るようにするには、常に親が手本を示すことである。この躾の出来ている親が、学校に向かって意見を述べて来たときは、教員は真摯に耳を傾けて聞け！。それは必ず価値ある意見に違いない。この躾が出来ていない親の意見は我欲ばかりで、害もある。世間はこれをモンスターという。そんな人の意見は断固拒絶せよ。
- 若き親たちよ。わが子の学力を伸ばしたいと願うならば読書。　映像画面を捨て、本を読む子にすれば必ず学力は向上する。本を生涯の友とせよ。映像画面からは学力は育たない。『本は最高の教師なり』　　但し学術映像は別。
- 天気のよい日に、あちこちの学校運動場付近から体育授業を参観していると、どのクラスも体育になっていない。運動量が少ないのである。技を高めていないのである。体育授業が終わったとき、「ああ　しんどかった」と子供に言わせる授業、今まで出来なかったことが「きょう出来るようになった」と笑顔になる授業。頑張ったのに出来ないで悔しさがあふれている顔。こんな授業でなければ力は伸びない。小学校でも男子教員ならば、１０秒倒立、跳び箱の水平跳び、鉄棒での蹴上がり、巴、蹴上がりの連続技くらいは子供に示範せよ。　高鉄棒が消えたとは情けない。
- 夏休み、あちこちのプールを見に行くが、親の監視の中で５～６人の子供が、風呂にでも入っているような姿ばかり。なぜ教員は夏休みプールで鍛えなくなったのか。これでは水道代、薬品代、電気代は篠山市にとって壮大な無駄遣いではないか。
- 安全重視の昨今、登下校は保護者の送り迎えとなっているが、道中は昔から子供の自治力を育てる教育の場所である。だから、保護者は手を離せ、でも目を離すな。また一斉下校で居残り勉強はしなくなったのか。私は、テストで１００点が取れない子は、放課後１００点が取れるまで、日の暮れるころまで残した。いま学力補強はどうしているのか？　行事を精選し土曜日を復活すべきではないか。
- 昭和４０年代半ばごろから起こった「こどもの世界は平等であれ」「競争で劣等感を植え付けるな」の声に押された教員は「無限の可能性を秘めた子供の資質に安易な評価はつけられない」と噴飯物の理屈をこねて、運動会から１・２・３等の旗を取り去り、通知表から１・２・３・４・５の評価を消してしまった。

・　それよりも早く日教組は、昭和３３年勤務評定反対、３５年道徳教育復活反対、３７年全国一斉の学力テスト反対。その後、次ぎ次ぎと制度反対運動し、教員は聖職者から労働者へと意識変革させ、学校の権威を自ら弱めて行った。

教頭と主任の制度化による校務分掌の重層構造化に反対し、さらに「職員会議を最高議決機関とせよ」と迫った法（学校教育法第２８条「校長は校務を司り、所属職員を監督する」校長は事案を職員会議に付すが議決権は校長にある）破壊の運動は、いっそう学校の権威低下と教育弱体化となり、もろに子供へかぶさっていった。

かつて　日本の算数・数学の力は常に世界一だった。近年はベスト１０にも入らない。また「大阪の学童体力は落ちるところまで落ちて、もうこれ以上は落ちようがないところまで来た」と産経新聞は報じていた。

・　教育には、規制があり、強制があり、競争があってこそ、その中で子供は鍛えられ磨かれて向上し、強く、正しく、美しい人権・人格をつくりあげて行く。

競争で上位が取れなかった子への担任の配慮。これが学級づくりの神髄である。

担任時代、３教委学校視察の度に３教育長のうちの某教育長から「また競争させているっ！」　と何回か叱られた。が、わたしは譲らなかった。

・　昨年　某小学校と某中学校のオープンスクール道徳授業のご案内をいただき、参観に行って愕然とした。小・中学校とも「平和」「人権」「福祉」授業ばかり。あんなものは道徳授業とは言わない。あれでは子供の心は育たない。

小学校６年生では「権利の木」という副読本教材を使っていた。その中では「ほしいものは要求する権利がある」と教え「いやなことは断る権利がある」と教えていた。　違う！「人の嫌がる仕事を笑顔で真っ先に！」と教えよ。でないと、未熟な子供の心は我欲に固まり、そのまま育てば、荒れて当然だ。この道徳副読本は兵庫県教育委員会製作である。 今度　改訂されたとは聞いたが。

中学校では福祉教育オンパレードで、「いたわり」の心ばかりを植え付けている。これでは『大志』の抱きようがない。

同学年、全クラス、同一教材で「赤信号みんなで渡れば怖くない」という姿である。授業の中に担任の創意・個性の発揮は無く、洞察も魅力ある展開も無く、子供の反応も無い。子供達はうつ伏せ、後ろを向き、隣同士の私語で集中していない。子供はあんな授業は望んでいない。

- 小・中学校で、道徳教育をしないで人権教育・平和教育をやったら子供は荒れる。福祉教育では小粒になる。大物には育たない。大志の『大』は子供にとって大きな意味を持つものなのである。　夢は大きく持たせよ。
  また人権教育や平和教育は、歴史的にも哲学的にも政治的にも高度な学問であり、正しく理解するにはかなりの学力と人生経験を持ってから学ばないと、花も咲かず、実も実らない。
  小・中学校で　人権・平和教育をやるのは、赤ちゃんにミルクを与えず、離乳食を飛ばして、いきなり硬いご飯を食べさせるのと同じであり、その消化不良が心の不健康とゆがみをつくっていると思えてならない。
  思慮の浅い教員が人権教育をやったら、恐らく「自己中心」「権利主張」ばかりが先行する子供をつくることになり、他人攻撃が当たり前の子供を育てることになるだろう。　そんな子は善・悪の判断力すら育たないものだ。
  いま、多発する犯罪原因のほとんどは道徳教育欠落の結果である。「子供の人権」を強調して教育を歪めて来た大人たちへのツケである。
  小・中でまず道徳教育を学び、高校で倫理を学んだ後に人権教育へと進めば、もっともっと人権は守られ、高齢者にも障害者にもいっそう温かい手が差し伸べられて、善意の人々が満ち溢れる住みよい町（国）へと進み、当然、犯罪の減少も実現して、安心・安全の町（国）となるに違いない。
  思慮が浅い、また深いというのは、『この教育で、この子たちは将来どんな子に育って行くか』という見通しが出来ているかどうか、ということであり、使用教材の良否判断が的確に出来るか、という教員の力量を指す。
- 最近、小学校の修学旅行は“伊勢参り”ではなく、“広島原爆学習”となり、社会見学旅行は奈良・京都ではなく“ピースおおさか”と変わっているようだ。
  反戦も平和も大切だけれど児童の発達段階を考えれば時期尚早である。荒れの原因がここにもある。　「広島」「長崎」は高校時代が妥当である。
- 伊勢の地は日本人にとり、神話の心や神の存在を学ぶ一方、日本歴史の発祥を知り、神明造りという世界に誇れる日本古代建築も見て、日本人の誇りを育てる大切な教育の場となってきた。篠山は伊勢に近い恵まれた地であり曾祖父の時代から伊勢参りが定番となってきた。山の子に海の学習もでき、世代間の共通の話題にもなり、

家族をはじめ同体験の人々の、心の結び付きにも大きく貢献して来たものである。
子供に日本の歴史・文化・伝統を学ばせ、誇りを持たせるよりも、平和が大切と言う校長たちがいとも簡単に変えてしまった。

- 先年　男女共同参画社会構築という一見、崇高そうな社会運動のうち、ジェンダーフリー（性差否定思想）といって、これぞ人権教育と自負する、怪しげな運動に乗った教員により、過激な性教育が日本各地で展開されかけた。それを知った時の総理小泉氏が 地元横須賀でも行われていると聞き、そっと参観に行って、あまりのひどさに仰天したという。　総理の一喝でいったん姿は消えた。

（参考＝『日本よ　永遠なれ』山谷えり子著　扶桑新書　７１４円）

- 実は当時の多紀郡でもこれを進める教員がいた。

1年生の教室で、男女の裸の絵を寝姿で重ね合わせたものを、黒板に張り付け「お父さんのペニスがお母さんのワギナに入り、お父さんから出た種がお母さんのおなかの中で育ち、赤ちゃんとなります。生みたくないときにはコンドームというゴムの袋を使って、種が入らないようにします」という授業である。

- 『性』は命につながる尊いもの。婚前の純潔・操は命と同じ尊い宝物なのである。

男と女は互いに尊敬し合い、信頼の上に立って協力し合うのが正しい人の道。乱れた男女交際をしてはならない。傷つけあう行為は厳に戒めなければならぬと教えるのが教育である。もちろん、学年の発達段階にふさわしい内容でなければいけないが、この道徳を教えないで、性の仕組みテクニックだけを教える歪んだ指導がなされていた。これでは少年少女たちの不純異性交遊を奨励し、簡単に売春行為にも及ぶ事になる。この教育こそ人権侵害の極みであり亡国教育である。

最近　この歪んだ指導が、またまた復活傾向にあるという。

今、女子高校生のひそかな堕胎処置が丹波地区でも多いと聞く。

- 市内の小・中学校での卒業式は、校長が舞台に上がり、卒業生を壇に呼び付けて証書を渡すことをしない。　　実は私もそうして来た。それで良いと思っていた。

退職してから、「あれは大変な間違いだった」と反省し、これは教員の、子供や社会に対するおもねりであったと痛恨の思いで悔やんでいる。

学校にとって最高権威のある卒業証書は、講堂舞台の壇上から、国旗と市旗と校旗を背負った校長が、登壇して来た卒業生に手渡すものなのである。

横から渡すものではない。校長式辞も　教育委員会告辞も　来賓祝辞も、正面　壇上から下にいる卒業生に与えるものである。卒業証書授与式の授与はそれを意味しているのである。それが、子供に示す大人の権威なのである。学校は権威を失ってはならない。権威を失えば学校は崩壊する。家庭で父・母権が喪失すればその家は崩壊するように。　もちろん権威には必ず重い責任と義務が伴う。

思えば私も取り返しのできない、おわびの仕様もない間違いを犯していた。今も慚愧の日々を過ごしている。

・　いくつか提言をして来たが、存分に反論して欲しい。いつでも、どなたとでも教育を語り合いたい。強く　正しく　美しい子供の育成のためならば。

語り合う中に　さらに新しい改革が生まれるだろうし、反省もあり、修正もあっていっそう正常な中央道を歩む教育が創り出せることにもなるだろう。

・　東京都が大きな教育改革を成し遂げつつある。知事はまだ、道半ばと言われているが、都民の圧倒的支持を得て、目を見張る改革が進んでいる。

いま大阪が大教組とそれを支援する一部府民の猛反対の中で、東京に負けじと教育改革に向けて奮闘中である。

両都に呼応して、中京地区・名古屋も立ち上がって来た。

三大都市圏の教育再生・正常化で、他の道府県も見習い、近い日に日本は生まれ変わるであろうことを期待する。日本海側では多くの県がが正常化されているが。

・　篠山で育つ子供達が　篠山に住む幸せを誇りとし、親と教員の **鍛えの教育** を受けて、強くなり、正しい道を、また、高く険しい道を、美しく輝いて歩む若者となってくれるよう、また中には、国家を支えて立つ大人物が生まれてくれるよう心から願う。　　**教育は国力の根源なのである。**

教員の最高教育目標は『国家の確立を目指す人材』を育成することである。

この世に必要な人物・人材は、道徳教育なくしては決して育たない。

・　終わりに

江戸時代、篠山藩の名君は藩校「振徳堂」を造り、百姓、町人、武士を問わず、向学の子弟を招いて、知識を広め、徳を高める教育をすすめられた。そして世に秀れた人材を豊富に送り出された。今、この精神を受け継いで、近隣、他府県に例を見ない、篠山独自の徳性を高める教育を全学校に興したい。私の抱く大志・夢である。

・ **道徳教育とは　『子供が身につけるべき履修徳目』**

下記は、明治３７年（１９０４年）より昭和２０年（１９４５年）までに文部省より発行された修身書（道徳学習）の項目である。
これが、随筆的にまた物語風に書かれ、**発達段階を考慮して適切に**、尋常小学校初等科６学年、高等科２学年に配当されていた。
世界と日本の偉人物語が多く掲載されたいた。

① 素直な心をもつ　（正直、 誠実、 良心）　＝ワシントン

② 自分を慎む　（謙遜、 質素、 倹約、 寛容、 報恩、 整理整頓、 健康）
＝松下禅尼、上杉鷹山

③ 礼儀を正しくする　（礼儀、 人の名誉を重んずる）

④ 自分の行いを律する　（自己規律）　＝フランクリン

⑤ 夢を持つ　（立志、 進取の精神）　＝野口英世、ジェンナー、間宮林蔵
ほか多数の偉人

⑥ 一生懸命に働く　（学問勉強、 勤勉、 努力）　＝二宮金次郎、リンカーン
伊能忠敬

⑦ つらさを乗り越える　（忍耐、 辛抱、 克己）　＝中江藤樹、新井白石

⑧ 困難に立ち向かう　（勇気）

⑨ やるべきことを成し遂げる　（責任、 義務）　＝佐久間艇長

⑩ 合理的精神を持つ　（迷信の打破）　＝少年時代の光圀、ガリレイ

⑪ ルールを守る　（規則、 法律、 国法）＝松平定信、ソクラテス

⑫ 家族を尊ぶ　（夫婦、 親子、 兄弟、 祖先）＝渡辺崋山

⑬ 友達を大切にする　（友情）＝宮古島の人々

⑭ 思いやりの心を持つ　（同情、 博愛）　＝リビングストン、ナイチンゲール

⑮ 力を合わせて　（協力）　＝久留米の人々

⑯ みんなのために　（きれいな町、 公益）

⑰ 日本人として　（美しい日本、 愛国心）＝聖徳太子、吉田松陰、新渡戸稲造
林　子平、橋本左内

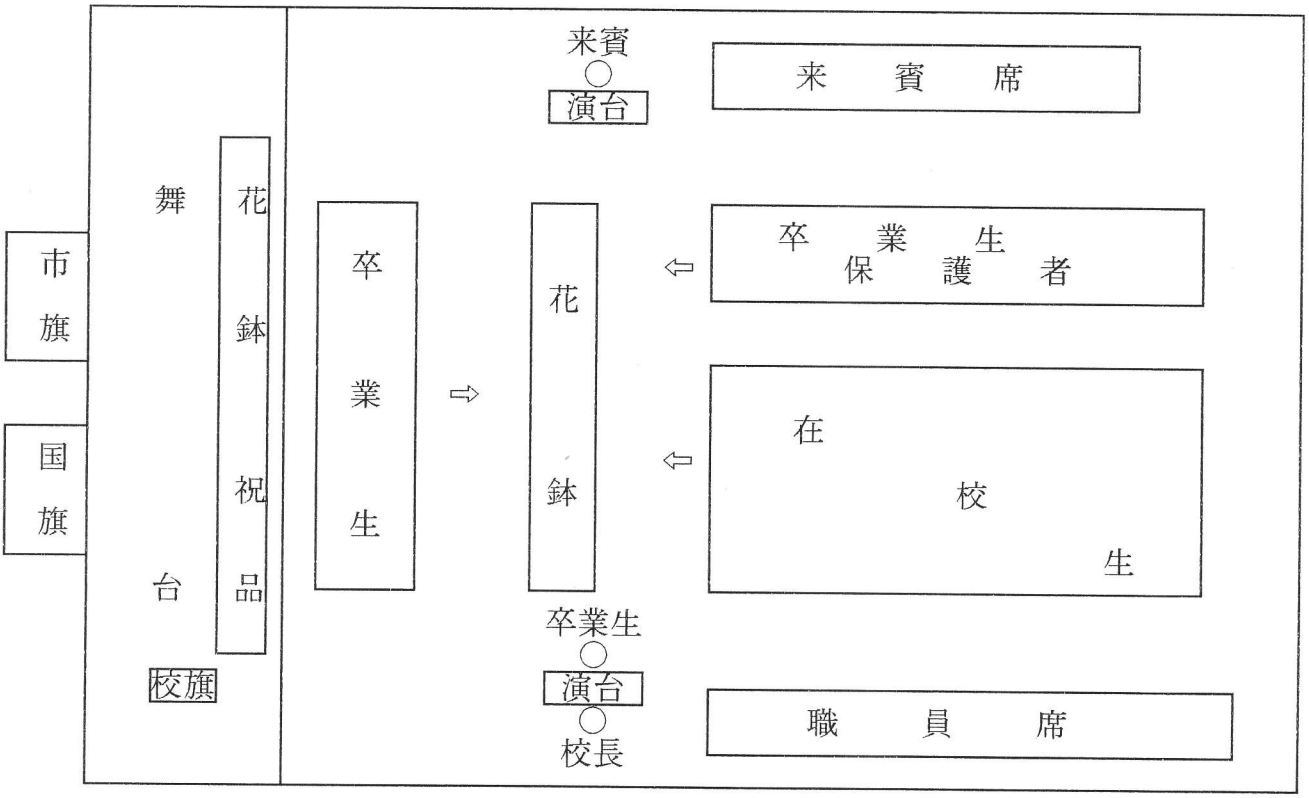
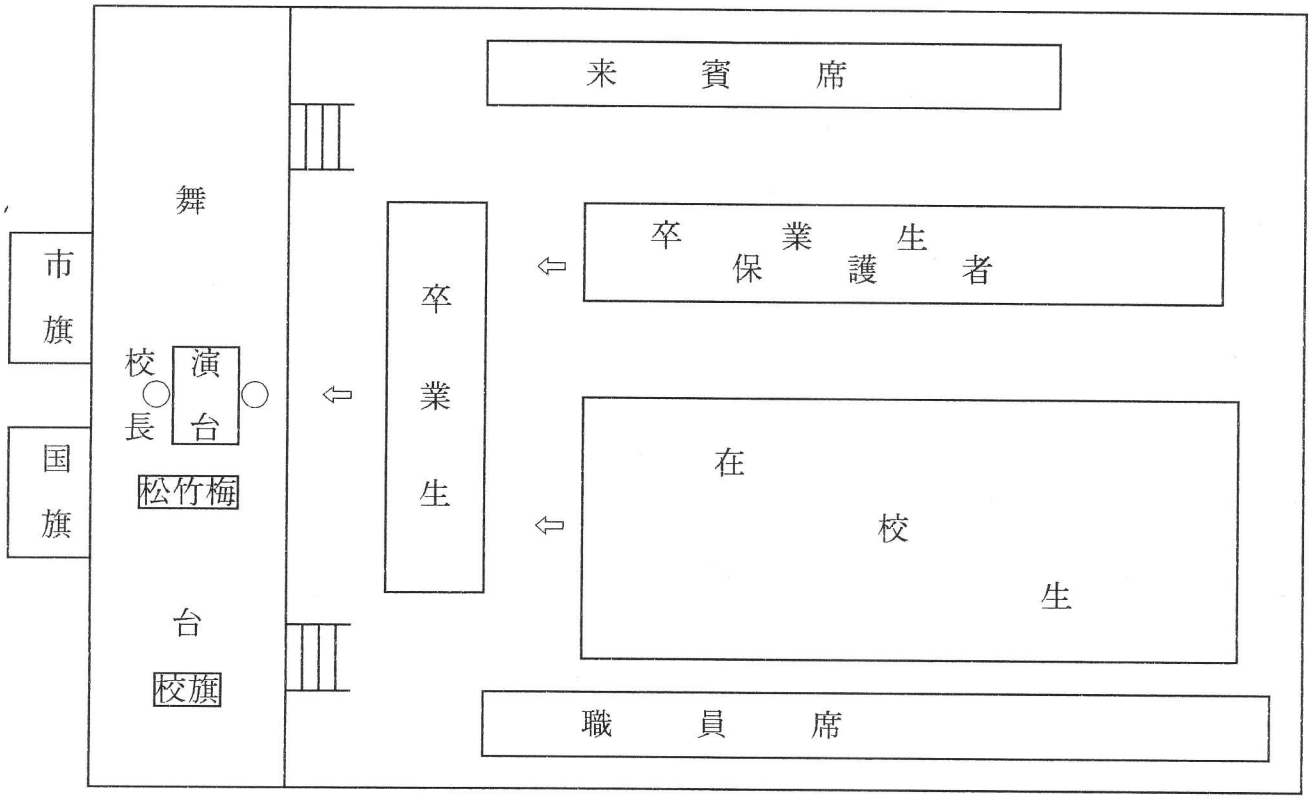
⑱ 美しく生きる　（畏敬と感謝）　＝大自然に対し

日教組は道徳教育に猛反対である。「子供を戦場に送ることになる」という。 ？

・ 教育の中の『不易流行』　教員はこの言葉（蕉翁の残した）を大切に。

・ 夏休みのプール指導は教員の本務である。８月も給料をいただき、校内にプールが有り、また体育指導要領に水泳指導内容が明記されているのだ。これをしないのは怠慢である。勤務放棄である。研修のためというが、研修時間はたっぷりある。
水泳で鍛える時、子供の伸びはすごい。その勢いが２学期の見事な成長をもたらす。
教員は採用試験で水泳テストを受け、子供の命を鍛え守る指導を学んで居るはずだ。
私は現役のころ毎年そこにに居た。

・ 学校勤務に「雑務」は無い。草引きも、溝掃除も、窓ガラス入れも、大工・左官仕事、ペンキ塗り、遊具の点検補修も便所の汲み取りも、すべて教育活動であり、子供の育成に繋がるものである。「人の嫌がる仕事を笑顔で真っ先に！」　これは以前、スクーリングで受けた玉川大学小原圀芳学長のお言葉。

卒業証書授与式・入学（園）式等　式場図

（上が最近型　　下が従来型）